

東京蜘蛛 談話会通信

(2001年5月27日) No.

102

編集：笹岡文雄 / 印刷：本紙・東京都豊島区光プリンター 付録：池田博明



1. 場所 横浜・円海山

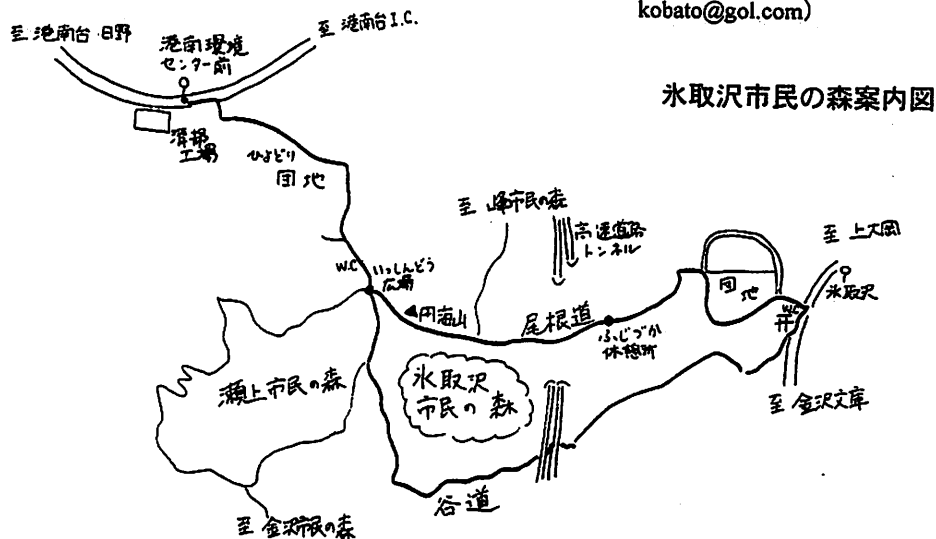
2. 日時 第2回 7月8日(日) 雨天決行!
(第3回10月14日 第4回2002年2月17日)

3. 集合 JR根岸線「港南台」駅 (横浜駅から約30分)
10:00

4. 交通 バスターミナル3番乗り場から、45系統「洋光台駅」行き、
69系統「芹ヶ谷」行き、107系統「金沢文庫駅西口」行き、
111系統「上大岡駅」行きに乗り、
「港南環境センター前」下車、ひよどり団地入り口の坂道を上って下さい。

5. 世話人 **安田明雄** (Tel 045-934-9210)

kobato@gol.com)



東京蜘蛛談話会2001年度予算

2001年4月22日

科 目	収 入	支 出	備 考
会費	¥712,200		欄外①
前年度繰越	¥122,130		
プール金から繰入れ	¥365,260		
会誌作成		¥850,000	欄外②
会誌発送		¥168,300	欄外③
談話会通信		¥117,790	欄外④
報酬・送料		¥38,500	欄外⑤
事務一般費		¥25,000	
計	¥1,199,590	¥1,199,590	

欄外

	単価	数	計
①会費	¥3,800	179	¥680,200
	¥2,000	16	¥32,000
計			¥712,200
②kishidaia80号	¥350,000	1	¥350,000
81号	¥250,000	1	¥250,000
82号	¥250,000	1	¥250,000
計			¥850,000
③kishidaia80号	¥310	198	¥61,380
81号	¥270	198	¥53,460
82号	¥270	198	¥53,460
計			¥168,300
④通信102号印刷	¥15,000	1	¥15,000
103号	¥15,000	1	¥15,000
104号	¥15,000	1	¥15,000
通信102号発送	¥90	197	¥17,730
103号発送	¥90	197	¥17,730
104号発送	¥90	197	¥17,730
例会はがき	¥50	392	¥19,600
計			¥117,790
⑤本部	¥2,000	1	¥2,000
事務局	¥5,000	1	¥5,000
編集	¥5,000	3	¥15,000
通信	¥6,500	1	¥6,500
会計	¥5,000	1	¥5,000
その他送料	¥5,000	1	¥5,000
計			¥38,500

2000年度会員動向

2000年4月1日時点の会員数 201名

入会13名, 退会18名(希望11名, 規約7名)

2001年4月1日現在の会員数 196名(名誉1名, 一般179名, 学生16名)

東京蜘蛛談話会2000年度決算報告

2001年4月22日

科 目	収 入	支 出	備 考
会費	¥1,288,800		欄外①
寄付	¥9,787		
別刷り	¥159,515		
利息	¥37,013		
前年度繰越し	¥215,644		
特別会計から繰り入れ	¥0		
会誌作成		¥684,075	欄外②
会誌発送		¥113,400	欄外③
談話会通信		¥128,380	
報酬・送料		¥42,690	各局通信事務費
事務一般費		¥33,084	封筒等
その他		¥0	
前納会費繰越総額		¥587,000	
2001年度に繰り越し		¥122,130	
計	¥1,710,759	¥1,710,759	

欄外

①00年度前納繰越	¥393,600
00年度当年納入	¥308,200
01年度以降前納	¥587,000
計	¥1,288,800

②78号本誌	¥336,000
78号別刷り	¥56,175
79号本誌	¥252,000
79号別刷り	¥39,900
	¥684,075

③78号本誌	¥63,470
78号別刷り	¥5,020
79号本誌	¥41,380
79号別刷り	¥3,530
計	¥113,400

	総額	うち年度内受領
2001年度前納	¥425,600	¥334,800
2002年度前納	¥91,000	¥48,400
2003年度前納	¥35,600	¥21,400
2004年度前納	¥16,000	¥3,800
2005年度前納	¥12,200	¥3,800
2006年度前納	¥6,600	¥3,800
前納合計	¥587,000	¥416,000

2001年3月31日現在の財政状況

郵便貯金	通常	¥789,380
	定額	¥638,035
振替口座		¥79,680
手持ち		¥93,766
計		¥1,600,861
内訳	01年度に繰越	¥122,130
	前納会費	¥587,000
	特別会計	¥891,731

以上相違ありません。 2001年4月22日

会計 安田明雄 会計監査 梅林 力

*00年度下記の方々（敬称略）から寄付を頂きました，感謝申し上げます。
 新海栄一，下謝名松榮，浜村徹三，木藤幸雄

東京蜘蛛談話会総会・例会報告

2001.4.22(日) 10:09 ~ 16:18

神奈川県相模原市・「ソレイユ相模原」6Fセミナールーム2

司会：今井正巳 (機器操作：谷川明男)

- (1) 開会挨拶：萱嶋 泉 10:09 ~ 10:10
- (2) 自己紹介 10:10 ~ 10:17
- (3) 午前講演 10:25 ~ 12:00

- ① 萱嶋 泉「コクサグモの発育段階における生育場所の移転について」(スライド)
- ② 新海 明「クモリストをもっと作ろう」(スライド)
→過去のクモリストの発表状況を通して、今後さらにその必要性を説く
- ③ 高橋 登「20世紀のクモの本」(スライド・レジメ)
→過去出版された蜘蛛に関する図書類の紹介
- ④ 八幡明彦「オオツチグモ類の交尾体位」(パソコン・VTR)
→オオツチグモ(タランチュラ)の交接体位を映像にて解説

昼食休憩 12:00 ~ 13:10
総会 13:10 ~ 14:00 (別項議事録参照)

- (4) 午後講演 14:20 ~ 16:15
- ⑤ 加藤むつみ「トゲグモの卵のうの色彩変異と、それを生じさせる要因についての考察」(パソコン)
→卵囊の色彩が過去の認識と違うこととその色が餌に影響されるとの仮説
- ⑥ 徳本 洋「巣材に蜘蛛の糸を用いる鳥」(スライド・レジメ)
→巣材に蜘蛛の糸を使うとされる鳥類エナガ、メジロなどのその使用状況
- ⑦ 谷川明男「カラオニグモ・マメオニグモの研究」(パソコン)
→従来から知られていた2種の知見の誤りと近似7種を全て新種とする
- ⑧ 新海 明「ジョロウグモは、どこで採れたのか。(ローレッツ氏の採集地をめぐる考察)」(スライド)
→従来の名古屋採集説ではなく、横浜・九州説を説く
- (5) 閉会挨拶：須賀瑛文 16:15 ~ 16:18
懇親会 17:00 ~

参加者 池田博明、石島力、井出和美、今井正巳、梅林力、小田島悠祐、小野展嗣、佐原喜久雄、加藤むつみ、萱嶋泉、木村知之、工藤泰恵、小峰光弘、笹岡文雄、笠原元良、佐藤裕子、佐藤幸子、新海明、須賀瑛文、高橋登、谷川明男、千田高史、土屋昌利、徳本洋、永井亜紀、新津紅、萩本房枝、水野陽介、水山栄子、安田明雄、八幡明彦、吉村紅鳥

(32名・敬称略)

例会点描



会場風景



集合写真(最前列中央・萱嶋泉先生)

2001年度東京蜘蛛談話会総会

議長 高橋 登 書記 井出和美

1. 2000年度 活動報告

- (1)会誌 78、79号発行 80号は、2001年度にずれ込んで発行予定。
 - (2)通信 99号、100、101号発行 100号は記念号として発行。増頁のために100号の製作経費は通常の2倍になった。
 - (3)採集会 東京都町田市 都立小山田緑地 担当今井正巳 後日会誌にて報告
 - (4)合宿 静岡県大井川鉄道沿線 担当 池田博明 → p.6 あらましあり
2. 2000年度 決算報告 (承認事項) → p.3 参照

3. 2001年度 活動計画

- (1)会誌 80号が、本来3月発送予定が2001年度発行。予算は今年度分に繰り越し。81、82号発行予定 (承認事項)
- (2)通信 102、103、104号発行予定 (承認事項)
- (3)採集会 横浜・円海山 担当安田明雄 (報告事項)「通信101号にて既報済」
- (4)合宿 富山県立山で実施予定。(承認事項) → p.12 参照

4. 2001年度 予算 → p.2 参照 (承認事項)

5. 承認事項の2000年度決算、2001年度予算、2001年度合宿計画の3点はすべて問題なく、承認されました。(会誌・通信は予算案による承認)

6. その他

(1)規約について

昨年度総会において吉倉真氏の退会を受けて、名誉会員に推挙したいと運営委員会より提案がありました。そのことについていろいろな意見があり、今年度の総会では、しっかり規約を見直し、規約を改正して提案する予定でした。しかし未だ異論も多く、もう一度会員から意見を頂く事になりました。

その中で、総会参加者に名誉会員が必要かどうか、挙手にて意見確認をしました。その結果では、必要ないと意思表示した会員が多数でした。

<参加者会員からの意見>

- ・名誉会員は必要ない。会に対する功績者が退会しても、会誌を寄贈するだけで良かった。
- ・昨年度の総会で名誉会員を認めて、規約を改正しようと決まった。したがって議論をスタートラインに戻すのは同じことの繰り返しになる。昨年議決した方向でやればいい。
- ・名誉会員が無限に増えていったらどうするか考えておくべきである。
- ・名誉会員を置くが、規約を厳しくする。
- ・名誉会員の規約を設けないのなら、現在いる名誉会員1名はやめにする。

例年度の総会の議事録がないなど不備があり混乱しましたが、今後運営委員会で会員の意見を参考にして、名誉会員の規定を含め規約を検討して、来年度総会で提案していきたいと思います。

(事務局)

会誌編集：木村知之 〒251-0012 東京都八王子市西片倉2-6-16 ラベニール210
原稿受付：池田博明 〒258-0018 神奈川県足柄上郡大井町金手1099

宿舎の予約：談話会の合宿の計画で、第一の条件は宿舎である。安価で快適かということはもちろんだが、収容人数や変更が可能かどうか、交通の便がどうか、周辺でクモが多く観察できるかといったことも大切な条件である。しかし、言い換えれば、宿舎をおさえることができて、予定人数の参加者が確保できれば、それで世話は終わったようなものである。

2000年の3月に、宿舎案内を参考に静岡県中部域を見て回り、中川根町営の“ウッドハウスおろくぼ”を第一候補にしたが、7月の予約は4月1日にならないと取れなかった。私自身の夏の予定が3月まで確定せず、合宿日程の決定も遅れて、結局、合宿は7月22日(土)～24日(月)となった。4月1日に24名で予定の宿舎(定員32名)を仮予約できて、まず第一関門をクリア。

参加者の確保：第二関門は参加者の確保である。少なすぎても多すぎても困る。6月末の〆切直前までは21名程度で、貸切になる目標の24名をクリアできそうになかった。しかし、〆切日にEメールや電話で申し込みが来て、軽くこの人数をクリアした。そして、最終的には定員32名ピッタリの宿泊数となった。まるで奇跡であった。一泊目と二泊目で人が入れ替わるので、のべ36名の参加数となった。突然のキャンセルが無ければもう心配はない。

参加者への通知および保険手続：参加予定者に列車時刻表や宿舎案内を郵送した。宿舎へ部屋割りと食事数を手配して、料金を確認し、当日を待つ。新海明さんに参加者の傷害保険(参加者の出発から帰着までを保障する保険で一名あたり約500円)の手配を依頼した。

当日は突然のキャンセルもなく、合宿を開始。修学旅行風に毎日の日程を張り出す。

収支決算：経費は参加者からの徴収金だけが収入である。支出は宿泊費・食費・保険料・現地での運転手への謝礼であった。収入と支出で残金無し。飲み代を勘案していなかったもので、結局、自己申告制で出してもらったが、これも丁度であった。

観察場所の設定：今年は、宿舎付近の標高が高く、快適ではあるがクモが少なかったもので、観察地の設定には困った。何台もの車が駐車できるところ、つまり道路近くで平地、しかもクモがたくさんいる場所という矛盾した要求を満たさなくてはならないのである。それに、午後の観察場所は日陰でないと、暑すぎた。下見で仮決定しておいた場所を、前日再確認したが、状態がよくなかったので、当日の朝、あちこちを探索して、「藤川」に変更。結果的には、そこでスズミグモや、キジロオヒグモが見つかったので、一安心。

さらに夜間観察地は地図を見て、当日「不動の滝」に設定した。夜は道路がよく分からない。宿舎の従業員に出発前に複数の道路のポイントを教えてもらったおかげで、無事にたどりつけた。周辺の環境はまずまずのところだった。

記録：ホームページで案内と結果報告を行った。既に写真や採集目録も掲載した。

URLは、<http://village.infoweb.ne.jp/~hispider/sizuokakumo.htm>

都立小山田緑地採集観察会第4回 クモリスト

2001年2月18日(日)

世話人・集計：今井正巳

参加者 (50音順・敬称略) 22名

池田博明、井出和美、今井正巳、上田優子、小川智行、小川春雄、小田島直子、
小田島永佳、小田島悠祐、笠原喜久雄、加藤むつみ、木村知之、小峰光弘、貞元己良、
新海 明、谷川明男、谷田光弘、新津 紅、新村 誠、萩本房枝、水野陽介、安田明雄

1. アシナグモ	n	31. バラギヒメグモ	n
2. アシブトヒメグモ	n	32. ヒシガタグモ	n
3. アズマキシダグモ	n	33. ヒメグモ	n
4. アライトコモリグモ	F n	34. ヒラタグモ	F m n
5. イツツグモ	F M	35. フタオイソウロウグモ	n
6. ウツキコモリグモ	n	36. マツモトハエトリ	n
7. ウデブトハエトリ	n	37. マネキグモ	n
8. ウロコアシナガクモ	n	38. マルツメオニグモ	n
9. エキスハエトリ	f n	39. ムナボシヒメグモ	f m
10. オオヒメグモ	n	40. メガネドヨウグモ	n
11. オニグモ	n	41. ヤハズフクログモ	n
12. カニミジングモ	M	42. ヤマジグモ	M
13. カネコトタテグモ	F	43. ヤマシロオニグモ	n
14. キハダエビグモ	f m	44. ヤミイロカニグモ	n
15. キハダカニグモ	n	45. ヤリグモ	f m
16. ギンナガゴミグモ	n	46. ユウレイグモ	m n
17. クサグモ	e	47. ユカタヤマシログモ	f
18. コアシダカグモ	n	48. ヨツデゴミグモ	n
19. コガタコガネグモ	e	49. キンイロエビグモ	n
20. ゴミグモ	n	50. ヤハズフクログモ	n
21. シャコグモ	n	51. ハラクロコモリグモ	M
22. ジョロウグモ	e	52. マダラスジハエトリ	F f
23. シラホシコゲチャハエトリ	m	53. サトヒメグモ	M
24. シロカネイソウロウグモ	n	54. アズマヤチグモ	F
25. シロスジショウジョウグモ	n		
26. ズグロオニグモ	n		
27. スジアカハシリグモ	n		
28. セマルトラフカニグモ	n		
29. トビジロイソウロウグモ	n		
30. ネコグモ	f		

以上54種

*略号 F: ♀成体 f: ♀幼体 M: ♂成体 m: ♂幼体 e: 卵

事務局 : 今井正巳 〒229-0038 神奈川県相模原市星が丘1-5-5

会計担当: 安田明雄 〒226-0011 神奈川県横浜市緑区中山町329-1 中山駅前ﾊﾞｲﾌﾟ1-506

郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会

会費は年度単位 一般¥3,800 学生¥2,000

近況つれづれ

(総会出欠ハガキから。不同順・一部
修文)

(1) 石井幸子 (愛知県名古屋市)

4月22日都合が悪く、出席出来ず残念です。今年は、自分のフィールドにの明德公園のクモしらべをしっかりとしてみたいと思っています。

(2) 須藤昌子 (北海道留萌市)

談話会通信101号有難く読ませて頂いております。留萌は、雪びっしり。当然のことながら、クモさんたちは休眠中です。クモのはなしⅠ・Ⅱ(梅谷、加藤編)読んでいます。が、クモさんあんたは偉いねと思う以上に、こと細かくクモを研究している人たちも偉いなあと感心しています。お元気で。

(3) 嶋田順一 (埼玉県飯能市)

今年、飯能市の市議員に立候補します。投票日が4月22日です。結果をまた連絡します。

(4) 小澤 實樹 (東京都豊島区)

幹事お疲れさまです。よろしくお願ひいたします。今年は、少しはクモとのつき合いも頻度をもちたいと思います。

(5) 佐藤幸子 (神奈川県横浜市)

12月に風邪のワクチンを注射しました。そのおかげかどうか、うその様に風邪を引かなくなりました。それにしても雪の多い1月です。家の外にいるクモたちは、さぞ寒かろうと案じています。息子が云います。「お母さんクモたちも、お彼岸までの辛抱だよ」と・・・。

(6) 緒方清人 (愛知県知立市)

2001年1月31日の出来事です。昼頃、愛知県豊田市から安城市に向かって、県道を車で走っていた時、助手席の家内が突然「ストップ」と叫びました。

電柱に「大蜘蛛家葬儀場御案内」の看板がありました。名字の「大蜘蛛」(オオクモかオオグモ分らないが)に驚、車中からしばらく見つめてしまいました。

確かに日本の名字は数千も有ると聞いていましたが、「大蜘蛛」という名は聞いたことがありません。皆さんいかがですか。

カメラを持っていましたが、車から下りて看板に向けるのを、つい躊躇してしまいました。今思えば二度とないチャンスだったのかも知れません。

(編)「大蜘蛛」調査報告

「苗字8万よみかた辞典」(日外アソシエーツ)によると『大蜘蛛』は「おおくも」と読みます。同辞書にはその他に『土蜘蛛』・「つちくも」という苗字もありました。この苗字は非常に珍しいらしく、「難読姓氏辞典」(東京堂出版)など7種の辞書には記載ありませんでした。ただ「苗字8万よみかた辞典」は残念ながら読み方のみで、由来の記載はのっていません。

(7) 野崎文江 (埼玉県野呂山町)

地域の子ども達に毎日曜日にトランペットの指導をしていますので、観察採集会に参加できないので残念です。幸い我が家の庭の木にクモがいるので、ジョロウグモの観察をしています。2000年12月26日最低気温が-2.5℃動きがにぶくなっているクモを家の中に、観葉植物にのせた。2001年1月13日朝、天井を見ると卵のう

を作っているクモを発見。レースのような網をかけていた。子グモが出てくるのが楽しみです。

(8)小川洋一郎 (東京都八王子市)

新年度より会員に加えさせて頂くことになりました。宜しくお願いいたします。

タランチュラ10、サソリ5、ザリガニ30、海水サンゴ4に囲まれて楽しい日々です。日本ザリガニクラブ (crayfish club of japan) CCJの会長も務めさせて頂いております。

(9)新村 誠 (神奈川県川崎市)

森林インストラクターの認知度が上がっているようで、何かと問い合わせ依頼が増えています。相変わらずクモは、ちっとも上達しません。たくさん教えて下さい。

(10)梅林 力 (東京都杉並区)

現在冬ごもりをしています。4月頃には、ハッチするでしょうが。

(11)萱島 泉 (東京都日野市)

最近クモに興味を持つ人が増加してきたと思います。このことは、会員の皆様方の働きによることが多いと思います。談話会のクモに対する熱意により、一般の人々がクモを理解してくれたお陰だと思います。

(12)徳本 洋 (石川県金沢市)

金沢市内にクモに興味を持つ若い人が少し現れて喜んでいます。今日は、イソコモリグモを調べたいという学生と浜に行きました。

(13)小野 展嗣 (東京都新宿区)

本州、四国、九州に分布するキシノウエトタテグモは、本当に1種なのだろうか。目下の疑問はこれです。

(14)初芝 伸吾、甲野 涼 (東京都国立市)

先日バスに乗りました時、警視庁のポスターを見かけました。和泉流和泉元彌が、(少々くずれている)ガラの素敵な羽織を着てポーズを取っていました。コピーは、「菓物の甘い誘惑を断つ勇氣」

(15)小笠原 幸恵 (愛知県名古屋)

近況ですか？ えー、現在、クモは、ほぼ休業中。時間に余裕がない、なんて言い訳はしたかないけどさ。こんなにいい季節のしかも休日に、ひとり事務所で、黙々とコピーなんかしていると、つくづく情けなくなるよ。トホホ。ま、唯一の楽しみといえば、毎週木曜日の「週間プロレス」かな〜。

それにしても新日本プロレスはどーなっちゃうんだろう。妖怪・猪木が、闘魂棒でぐるぐるかきまぜて、もう、めちゃくちゃのぐちゃぐちゃ。一寸先は闇って感じだね。でも、4/9のTV生中継。獣神サンダーライガーをかなぐり捨てた怒りの山田恵一は文句なしにかっこよかったぜ！！ クモにぜんぜん関係ないこと書いちゃってすみません。

☆千国安之輔 (長野県豊科町)

(前略)「東京蜘蛛談話会通信」を御恵送いただきまして、誠にありがとうございました。早速、拝読しております。

壮年時代に皆様と共に様々の研究などの活動生活をしたこと往時を懐かしい思いに耽っています。ありがとうございました。今後も皆様の御活動と御健勝を祈っています。

(後略)

その他ハガキをいただいた方々

出席：井出和美、水野陽介、新海 明、谷川明男

欠席：藤井靖浩、峯澤 渉

情報をお寄せください！

1. 1881年～1882年ごろ、横浜のフランス領事館に通訳官として勤務していた A. Mellottee ムルローテ または ムロテ について。
2. 「Japamische Spinnen」に記載されたクモを採集した当時、神戸に居住していた外国人商人 Lentz レンツ について。
3. シーボルトの門人石井宗謙が書いた「日本の蜘蛛類図説」について。
4. 御雇外国人エドワード・モースがクモについて日本で講演していますが、その内容について。
5. イギリスの海軍士官 Alfred Carpenter アルフレッド・カーペンターが1882年ごろ対馬で採集したクモについて。
6. アマミサソリモドキとタイワンサソリモドキの原記載について。
7. 雑誌ランザニア Lansania Journal of Arachnology and Zooligy について。

1巻1号から8巻79号(1920年)までであるといわれていますが、未発行の号があるので実質40冊ぐらい出版されているとのこと。毎号16ページ、蘭山会機関雑誌。

どんな小さな事でも結構です。下記までお知らせ下さい。

〒210-0831

神奈川県川崎市川崎区観音1-14-15

高橋 登 Tel: 044-288-2921

クモ類またはクモ学に関することまた標本などの情報などをお求めの方、できる限り記事を「談話会通信」に掲載します。編集担当にご相談ください。

(編集担当：笹岡)

通信編集担当 170-0004

東京都豊島区北大塚3-12-21

笹岡文雄

◇会員異動 (2001年1～3月)

入 会

林 豊 : 〒194-0032 東京都町田市本町田1522-43
本田重義 : 〒470-0115 愛知県日進市折戸町藤塚56-607
永井亜紀 : 〒228-0015 神奈川県座間市南栗原4-8-10
小川洋一郎 : 〒192-0046 東京都八王子市明神町2-8-4
佐藤裕子 : 〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-28-14 飯田ビル (併アジェンダ)
吉村紅鳥 : 〒229-0011 神奈川県相模原市大野台8-4-4

退 会

(希望) 上原 健、小林健一、下謝名松榮、中平 清、浪波徳良
(規約) 稲垣成二、稲葉茂代、笠原須磨生、川崎慎二、福田英克、宮島 仁、鍋田修身
住所変更

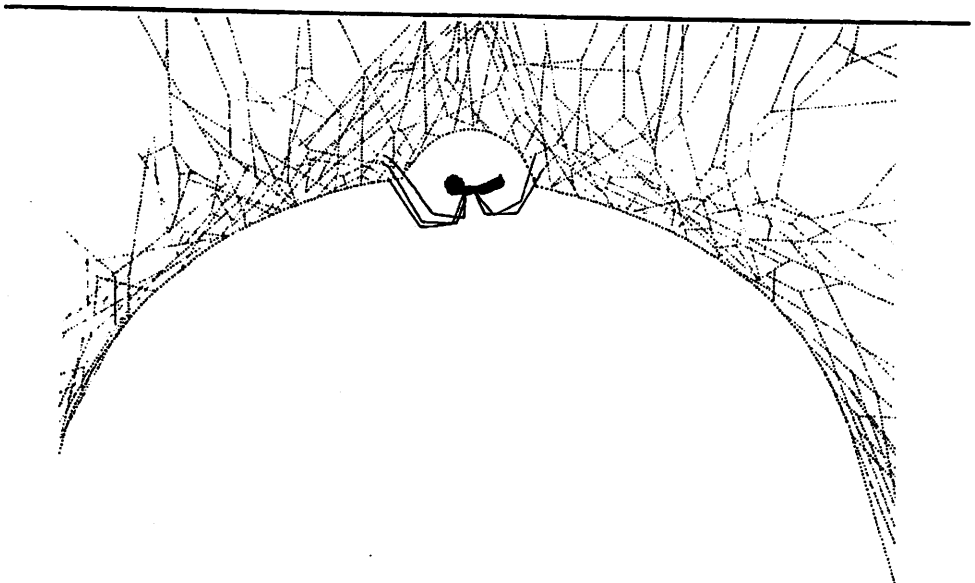
長島忠義 : 〒100-2101 東京都小笠原村父島電信山職員住宅1-1-1-1

(敬称略)

101号「付録」の取り扱いについてお願い

今号に同封しました付録の内、1枚は「談話会通信」101号付録の表示がついています。前回101号発送の折り、郵便料金超過により保留していたものです。付録提供していただいた方々のお名前を101号に掲載してある関係で、付録号数はそのままにしました。今回102号に同封しましたが、前号101号の付録としてお取り扱いお願いいたします。

(通信担当：笹岡)



東京蜘蛛談話会 2001年合宿について

東京蜘蛛談話会2001年合宿を以下のように富山県の立山山麓スキー場群付近で行ないます。主な観察地として常願寺川（じょうがんじがわ）谷付近と、この谷と平野部の接点付近の丘陵地を考えています。ここは立山登山の表玄関口ですが、溪谷もブナ帯も低山丘陵地も宿舎のすぐ近くに揃っており、クモの調査、観察には絶好の環境です。富山県はクモ相調査レベルの最低県の一つなので、参加者の皆さんが富山県初記録を大量に出していただくことを期待しています。

日程：2001年7月20日（金）～22日（日）

宿泊：極楽坂スキー場「観山荘」 富山県上新川郡大山町原 58-3
Tel 076-482-1538 Fax 076-482-1422

費用：宿泊費（1泊3食付き）8000円（現地にて徴収）
この他に 旅行保険+通信費として1000円ほどかかります。

交通：A. 鉄道 JR北陸本線富山駅下車 富山地铁立山線（発車間隔約1時間）
約60分 終点立山駅下車。 宿舎のバスが迎えに出ます。

B. 自動車 北陸自動車道立山インター（富山市の東） 25分 宿舎
（富山インターで下車すると道がわかりにくく、距離も遠くなります）

申し込みは、6月30日までに下記の申し込み書に必要事項を記入の上、新海 明
〒190-0022 立川市錦町 3-12-16-1103 まで郵送して下さい。
早めに申し込み下さい。参加者には時刻表・道路地図などを別途ご案内します。

102-(12)

_____キ_____リ_____ト_____リ_____

東京蜘蛛談話会富山合宿に以下のように参加します（○×を記入して下さい）。

7月20日（金）（ ） 〒（ ）

21日（土）（ ） 住所

22日（日）（ ）

氏名

自動車に参加します（ ） 〆

スズミグモ全国一斉調査 2001年度アンケート用紙

スズミグモ *Cyrtophora moluccensis* の分布の北上傾向が指摘されています。2000年現在で、福井県敦賀市、滋賀県、岐阜県金山町、静岡県北部、神奈川県、東京都、埼玉県比企郡滑川町までの分布が確認されています。スズミグモは大形種で網の特徴も明瞭であり、誰でも比較的容易に区別できます。このクモの分布の北上傾向の要因をさぐるためには、その分布が現時点でどのようになっているかを知らなければなりません。そのためには「分布していた」という情報と同時に「分布していなかった」という情報が欠かせません。特に、後者の情報が今までは意識されずに不足していたと思われます。

そこで、以下のような要領でアンケート調査を実施したいと思います。会員諸氏のご協力がいただけたら幸いです。

調査期間 2001年6月1日～9月30日

調査地 日本全国。「分布していなかった」という情報も重要です。

調査方法 アンケート用紙に記入して下記に郵送して下さい（申し訳ありませんが、郵送料はご負担ください）。調査地が複数にまたがる場合には、お手数ですがこの用紙をコピーして調査地別に記入して下さい。

送付先 190-0022 立川市錦町3-12-16-1103 新海 明

2001年度スズミグモ分布一斉調査結果

*あなたの調査地付近に「いない」という情報も重要です。宜しくお願いします。

1. 調査地を（わかる範囲で詳しく）お書き下さい。

都道府県

市郡

区町村

調査日時は、 2001年 月 日

2. そこでスズミグモを、 (ア. みつけた イ. みつけられなかった)

3. アと答えた方にお聞きします。

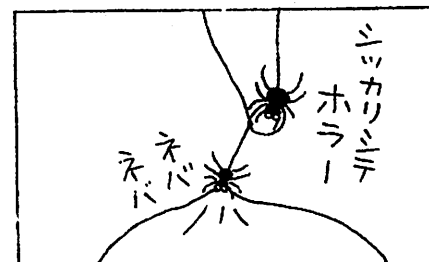
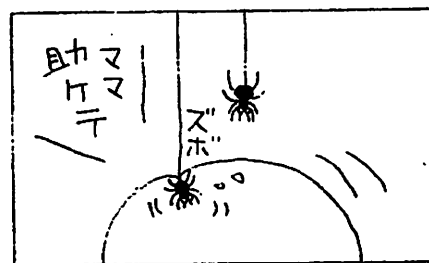
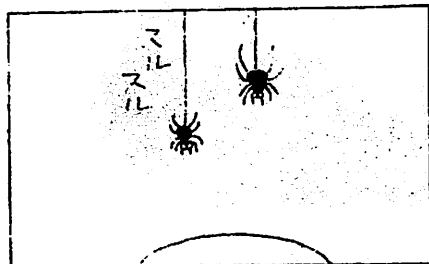
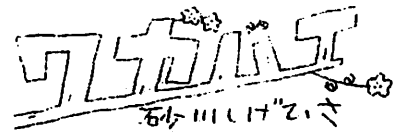
スズミグモは、♀成体・亜成体 () 頭、 ♂成体・亜成体 () 頭
♀♂不明幼体 () 頭、 網のみ確認 () 頭

4. その他お気づきの点がありましたら記入して下さい。

5. 調査者のお名前は ()

----- ご協力ありがとうございました。

2001.2.23 朝日新聞夕刊 ↓
 梅林 力さん提供



へばりついていて、網をえも破っていない。鳥の糞と見まちがう前に、それも目につかないのだ。僕も良い聞きの名は知っていたものの、見たことのないクモであった。ある日の自然観察会でのこと。クワの葉に、見慣れぬクモの卵のうがついていて、網を近づけてみると、その網にクモもいた。これがトリノフンダマシとはじめての出会だった。こうして二度出会うと、だいたい彼らがしんとくろが好きなか見えてくる。クワの葉以外には、ススキの葉でも彼らの姿を探せるよう

になった。いや正しくいうと、いわゆる鳥の糞の姿をしているのはメスだから、彼女らの姿というところだけどもススキの葉を見ていくうちに、このトリノフンダマシの仲間には他にいないことがわかるようになってきた。雄雌で見つけたのは、全部で六個。このうちアカイトトリノフンダマシは、鳥の糞などにはちっとも似ていない。はじめ見た時は、てっきりテントウムシだと思った。テントウムシは味がまずく鳥に捕食されないというから、おそらくそれに擬態しているのだろう。そ

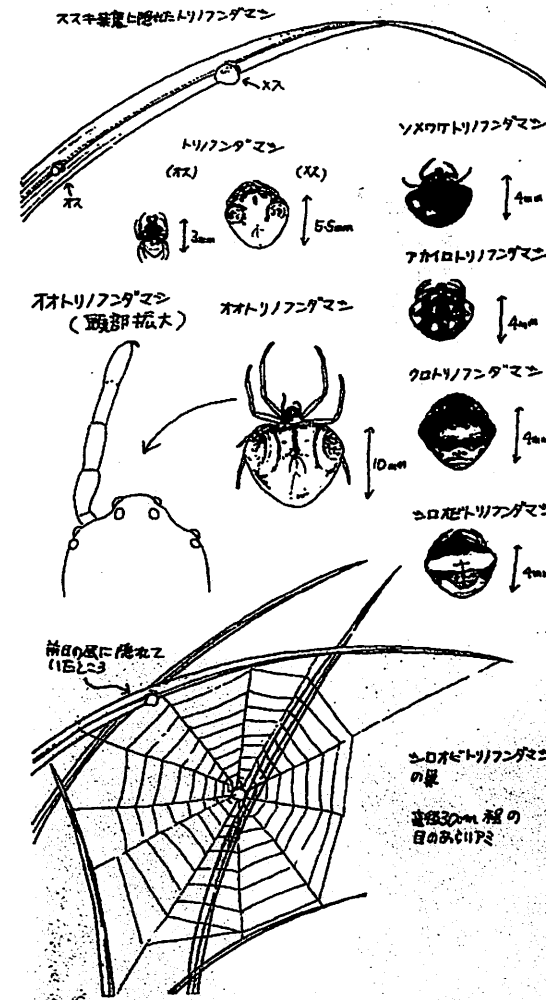
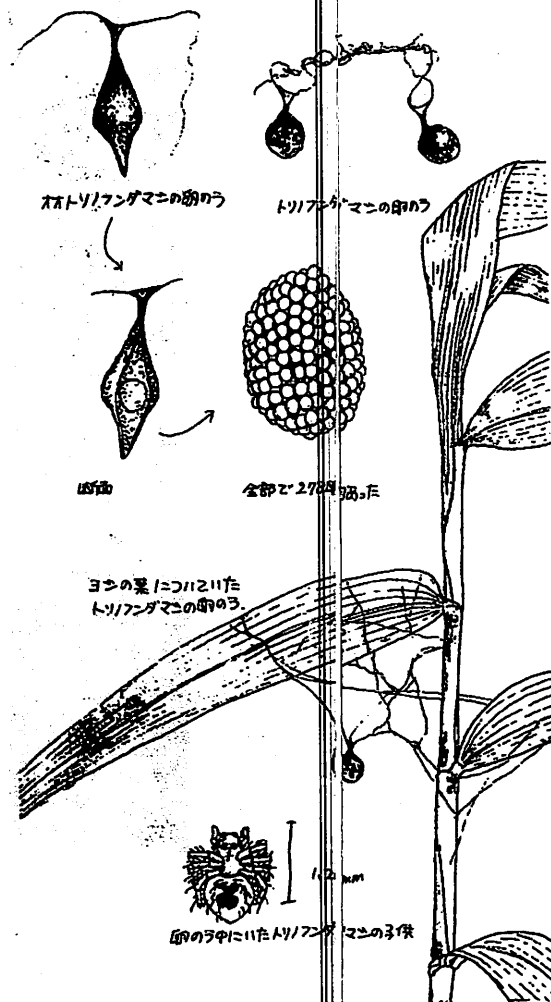
れにしても一方は鳥の糞、一方はテントウムシと、どうしてまったく異なるいものに見えるのかと考へてしまふ。さてトリノフンダマシの特徴は、素直にじっとひんするということだ。敵に見つからないのはいいとして、これではエサはとれないのか。実は彼女らは夜、網を張り、朝になると、初夏の朝をたんでしまふのだ。初夏のある日、朝五時、夜近くのススキ原に出かけてみた。まだたむろのシロオビトリノフンダマシの網を見る

ことができた。彼女らはもっぱら夜間に活動するガを捕って暮らしている。そして朝、網についた小さな虫と、網を回収して食べるという。クモの網はタンパク質だ。つまり毎日網をしかけても、ムダにはならないのだ。こんな目だためトリノフンダマシが多少目につくようになるのは、僕がはじめて目にした時のように、夏の終わりに、彼女らが卵のうを作りだす時だ。そして卵は早いものは九月にはふ化し、子クモはやがていすこもなく姿を消す。再び夏がくるまでの間、彼女らがどこにすのか僕は知らない。

141 BE-PAL 8月号 2000

2001.2.3 毎日新聞夕刊 ↓
 提供：笹岡

★お願い 「毒グモを見つけたら、逃げないで捕まえて」、オーストラリア・シドニーの公園管理者は、猛毒を持つジョウゴグモを確保しようと、ついに市民向けの「緊急声明」を出した。



僕 は、クモはあんまり好きではない。怖いとかそういうことではなく、体が柔らかいから、抱いたときの感覚が、クモは抱くとっておけるものではないので、興味の対象外になることが多いのだ。そんな僕でも、唯一といっていいほど好きなクモがいる。それがトリノフンダマシだ。トリノフンダマシはその名の通り、鳥の糞というよりも白いかたまりの鳥のおしっこに似ている。昼間は手足を凝めて身体しか目に入らぬから、そう見えるのだ。しかも葉裏にすくと

怪人百面相級、擬態の天才クモ
トリノフンダマシ
 広葉樹やススキの葉裏にいた鳥の糞かと思えば、あ

山口 典 (おきぐち かつむ) 15年勤めた埼玉県の「自由の森学園」の理科教師をこの4月にやめて、現在フリー。「ぼくちの自由の森」(原簿は環境新聞)が好評発売中。「汁割」では、近所の市場でもハンデコを売っていて、毎日が楽しみだ

BE-PAL 2000.8 p.140-141
 ↑ 新村 誠さん提供

人がかまれた際の治療に欠かせない血清は毒そのものから作る。この公園はジョウゴグモから毒を抽出している唯一の場所。だが昨夏の火事で多くのクモが死んでしまい、血清の供給が追いつかなくなっ

てしまった。それにしても、かまれたら死んでしまうこともある毒グモの捕獲を一般市民に頼むなんて。管理者も「確かに、頭がおかしいと思われそう」【ロイター共同】

No. 102
 付録1

